

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ゆいまーる		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 10日		2025年 3月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年 3月 10日		2025年 3月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所内に運動フロア、おやつ兼工作フロアがあり、ゆったりとした空間で活動できる。	運動フロアを活用した毎日の運動プログラムにより、身体能力や情緒の安定を図っている。	運動専門スタッフの育成や外部講師の招致により、運動プログラムの質をさらに向上させる。
2	子どもたち自身による雑巾がけ、食器洗い、掃除機などの生活習慣支援を毎日行っている。	子どもたちが主体的に関われるよう、おやつ作りや掃除など日常生活支援に役割分担を明確にして取り組んでいる。	季節ごとの特別なおやつ作りイベントを企画し、楽しみながら食育や栄養に関する理解を深める。
3	積極的な外出活動(工場見学、公共交通機関の利用練習、お買い物練習)を実施し、社会経験の幅を広げている。	外出活動では公共交通機関の利用やお買い物体験を計画的に実施し、自立に向けた社会的スキルの獲得を支援している。	地域との連携を深め、地域の行事やイベントへの参加機会を増やし、社会参加をさらに促進する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容が固定化しがちで、子どもたちの関心や意欲が低下する可能性がある。	活動プログラムの新規開発や改善に取り組む時間が不足している。職員のコミュニケーション不足。	子どもたちの興味や意欲を引き出す新しいプログラムや活動を定期的に取り入れる仕組みを作る。
2	職員間の情報共有が不十分である場合がある。	忙しい業務状況により、職員同士のコミュニケーションや情報交換の場が限られている。	定期的なミーティングを設け、職員間の情報共有や意見交換の機会を増やす。
3	保護者とのコミュニケーションが限定的で、家庭との連携が十分でない場合がある。	保護者と情報を共有する機会や手段が不足している。	保護者との連絡ツール(連絡帳、LINE等)の活用を強化し、定期的な個別面談を実施して家庭との連携を深める。